

平成29年度第2回厚岸町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成30年2月9日（金） 13時30分～14時20分

2 場 所 厚岸町役場庁舎2階庁議室

3 出席者

（構成員）

町 長	若狭	靖
教 育 長	酒井	裕之
教育委員	田辺	正保
教育委員	濱	秀利
教育委員	平良木	宣行
教育委員	森脇	直美

（事務局）

総務課

課 長	松見	弘文
総務係長	水野	博嘉
主 任	岡村	健太朗

（教育委員会事務局）

管理課長	高橋	敏晴
管理課長補佐	渡部	貴志
指導室長	山田	敏一
生涯学習課長	高橋	俊彦
体育振興課長	高橋	政一

4 傍聴者 0人

5 内 容

○司会（総務課長）

ただいまから、平成29年度第2回厚岸町総合教育会議を開催いたします。
始めに若狭町長から御挨拶をいただきます。

○町長

皆さん方には教育行政についての色々な御支援御協力をいただいておりますことを心から厚くお礼を申し上げる次第であります。

御承知のとおり平昌冬季オリンピックが開会されようとしているわけでありまして、厚岸出身真龍中学校出身の佐藤綾乃選手がオリンピック選手として選考され、これか

らの競技において立派な成績のみならずメダルを獲得するであろう大きな期待を持っておるところでございます。

大変、厚岸にとりましても誇りであり名誉であるわけであります。今後ともこれを契機としてさらに第2の佐藤綾乃さんが厚岸町から出るように一層の皆様方の御協力をよろしく願いを申し上げる次第であります。

更には、我々行政は4月から3月までが年度であります。新年度に向かつての予算編成を致しているわけございまして、後ほど議題の中で行政執行方針を協議を致すわけでありますが、昨年よりも7億程度のプラスの95億3千万円程の総額予算になるであろうと考えております。

最終的な案は出来ておりませんが、3月7日から始まる町議会に提案し、最終的には決定をいただくということでございます。

そういう中で私も、総合教育会議の中でお話をしていますとおり、これからの時代かわいい子供は、厚岸町の宝である、その宝を磨きそして更に教育の現場において人づくりという立場から色々と御支援御協力をいただく中で厚岸の将来が磨かれるだろうと考えているわけであります。

そのような中で教育予算を教育長とも色々と相談を致し、新規も含めて今まで無い予算措置を致したつもりであります。どうかその点ご理解いただき、今後ともよろしく申し上げ、協議に入らせていただきたいと思います。よろしく願い申し上げます。

○司会（総務課長）

ありがとうございました。

本日の会議の進行につきましては、本会議の議長であります、町長に進めていただきます。よろしく願いします。

○議長（町長）

それでは早速協議に入りたいと存じます。

先程、挨拶で申し上げましたが、平成30年の厚岸町議会第1回定例会でございます。その中で、教育長からはこれから議題といたします「平成30年度教育行政執行方針」を述べられるわけであります。私からは町行政全般に渡っての執行方針を述べることになっております。その「平成30年度教育行政執行方針（案）」について皆様と共に協議をいただき、原案の中で色々御意見をいただきたいと思いますと考えております。

それでは教育委員会各課から説明いただきますので、よろしく願い致します。

○事務局（教育委員会管理課長）

「平成30年度教育行政執行方針（案）について」その内容をご説明させていただきます。

それでは1ページの序章について読み上げさせていただきます。その後、各担当（指導室長、生涯学習課長、体育振興課長）から概要について説明させていただきます。

■3説明・協議事項「(1)平成30年度教育行政執行方針（案）について」

配付資料1により内容説明

○議長（町長）

今、教育委員会各課から説明がありましたが、3点に分けてのそれぞれ担当課からの説明でありましたので、分かりやすく皆様の御意見をいただくために、それぞれ項目に分けて議事を進めて行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

「第一 学校教育の充実について」であります。前文も含めて何か御意見ありますか。

○濱委員

表現方法で聞きたい点が2点程あります。

7ページ「コミュニティ・スクール」ですが、P T Aや学校評議員の機能に、地域や関係団体などの力を加えて強力な「学校応援団」を組織してまいります。とありますが、「学校応援団」という表現が、コミュニティ・スクール事業を進めていく上で、適当なのか気になる。コミュニティ・スクールは学校の応援団では無いと思っています。学校運営を主体的に運営する母体となるべきものであって、決して応援団では無いのではと気になったところで、どのように考えたら良いか。

○教育委員会（指導室長）

学校応援団という言葉を用いたのは、出所は文部科学省の示されてきた言葉だった。今、濱委員からご指摘があった点について、イメージは伝わってきました。このコミュニティ・スクール事業によって、学校という部分も関わってきますが、地域も一緒にというところがあったものですから、そういった部分では特定されたイメージがあるのかなと思いました。

少しこの言葉を考えて行かなければならないと印象を持ちました。今、明確な言葉としてお示しできませんが、検討させていただく時間をいただきたいと思っております。

○議長（町長）

他に意見ありませんか。

○濱委員

2点目は、同じページの「教育公務員」という言葉なんですが、専門用語と思いますが、文書を読みながら「学校教員」という表現では駄目なのか、この辺の表現の仕方がどうなのか気になったところです。

○教育委員会（指導室長）

担当課の中でも、この言葉については色々と論議を致しました。

教育公務員という言葉は、学校現場で使われている言葉で、なかなか行政の中ではなじみのない言葉と思われます。違和感があれば、学校教員という言葉でもよろしいのではないかと思います。

○議長（町長）

どうします。検討するということですか。

○教育委員会（指導室長）

検討させていただければと思います。

○議長（町長）

その他ございませんか。

それでは、13ページの「第二 社会教育の推進について」であります。この中で考え方がありましたら手を上げてお願いします。

（意見なし）

○議長（町長）

続いて18ページ「第三 スポーツの振興について」であります。

○森脇委員

文言のことではなく、内容のことになってしまうのでここで言って良いか分かりませんが、厚岸小学校の着衣泳授業の実施というところがありました。いつも父兄に言われるんですが、「真小とかではやらないの」と言われます。将来的に厚岸小学校だけじゃなく、他の学校でも津波対策として着衣泳授業ができれば良いのではと、まちの人から意見をもらっていたところでした。

○教育委員会（体育振興課長）

厚岸小学校については、「水に賢い子どもを育む年間型活動プログラム」ということでやられてまして、それと併せて着衣泳につきましては、町内の小学校から中学校まで、防災教育という一つの領域で、小学校何時間、中学校何時間ということで組んでいく中で、全校が何らかのカリキュラムをやっている中で、厚小ですとか高知小中学校ですとか着衣泳の授業を取り入れてもらっています。私どもとしては、全校がやっていただくのが大変望ましいと思いますが、その学校によって年度の事情が多々あると思いますので、その中でできる年度とできない年度がでてくるのではないかと思います。一般的に5年生がやられていると思いますが、全校で満遍なく授業を取り入れてやっていただければ大変ありがたいと思っています。

○教育委員会（指導室長）

補足よろしいですか。

着衣泳についてですけれど、津波浸水域にある厚岸小学校と真龍小学校がそれぞれ実施させていただいているところでもあります。

厚岸小学校においては4年生の体育として、真龍小学校では5年生の体育として、ちょっとずれがありますが、それぞれの学年で体育として設定しておりますので、必

ずその学年に来ると経験するという状況にしております。

○議長（町長）

その他何か御意見ございませんか。

（意見なし）

○議長（町長）

それでは無いようでありますので、全般的なことにつて、御意見のあった問題については、議会前に教育委員会を開くことがありますか。

○教育委員会（管理課長）

今月の27日に開きます。

○議長（町長）

それではご指摘あった点については、総合教育会議ではなく、教育委員会の中で示して、ご検討いただいておりますか。

（わかりました）

○議長（町長）

教育行政執行方針については、指摘された点については、教育委員会で再度検討して成案にするということにしていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○議長（町長）

それでは、「(2)その他」に入ります。事務局は、何かありますか。

○事務局（総務課長）

事務局はありません。

○議長（町長）

教育委員会は、何かありますか。

○教育委員会（管理課長）

ありません

○議長（町長）

委員の皆様から何かありませんか。

(意見なし)

○議長（町長）

それでは無いようでありますので、本日の総合教育会議については終了させていただきたいと思えます。